

2024年7月9日(火)
一号館会議室 & zoom

2024年度流体科学研究所 研究活動報告会

海外留学経験の紹介

頭脳循環プログラムと
その後の国際共同研究の発展について

中村 寿

自己紹介

1997～ 東北大学 工学部・

Windnauts

新岡研究室

2003～ 東北大学 博士課程

小林研究室

COEリサーチアシスタント

国際宇宙大学SSP

教育研究支援者

2007～ 助教 丸田研究室

頭脳循環プログラム

2011.9-2012.9

アイルランド国立大学ゴールウェイ校

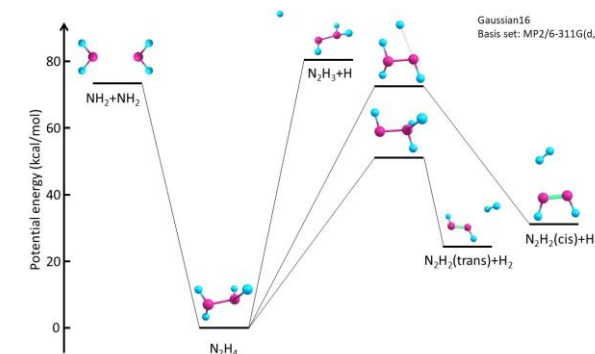
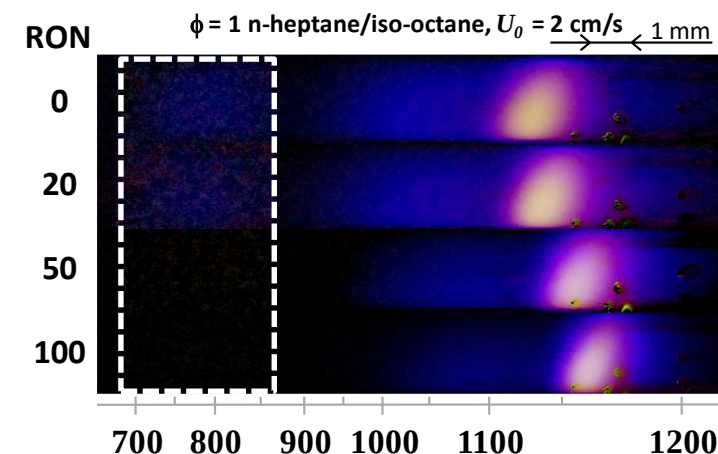
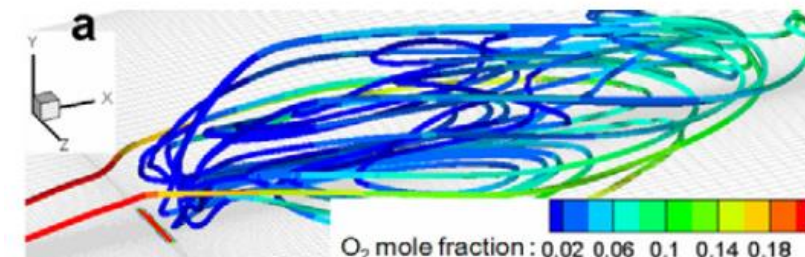
(現、ゴールウェイ大学)

2015～ 准教授 丸田研究室

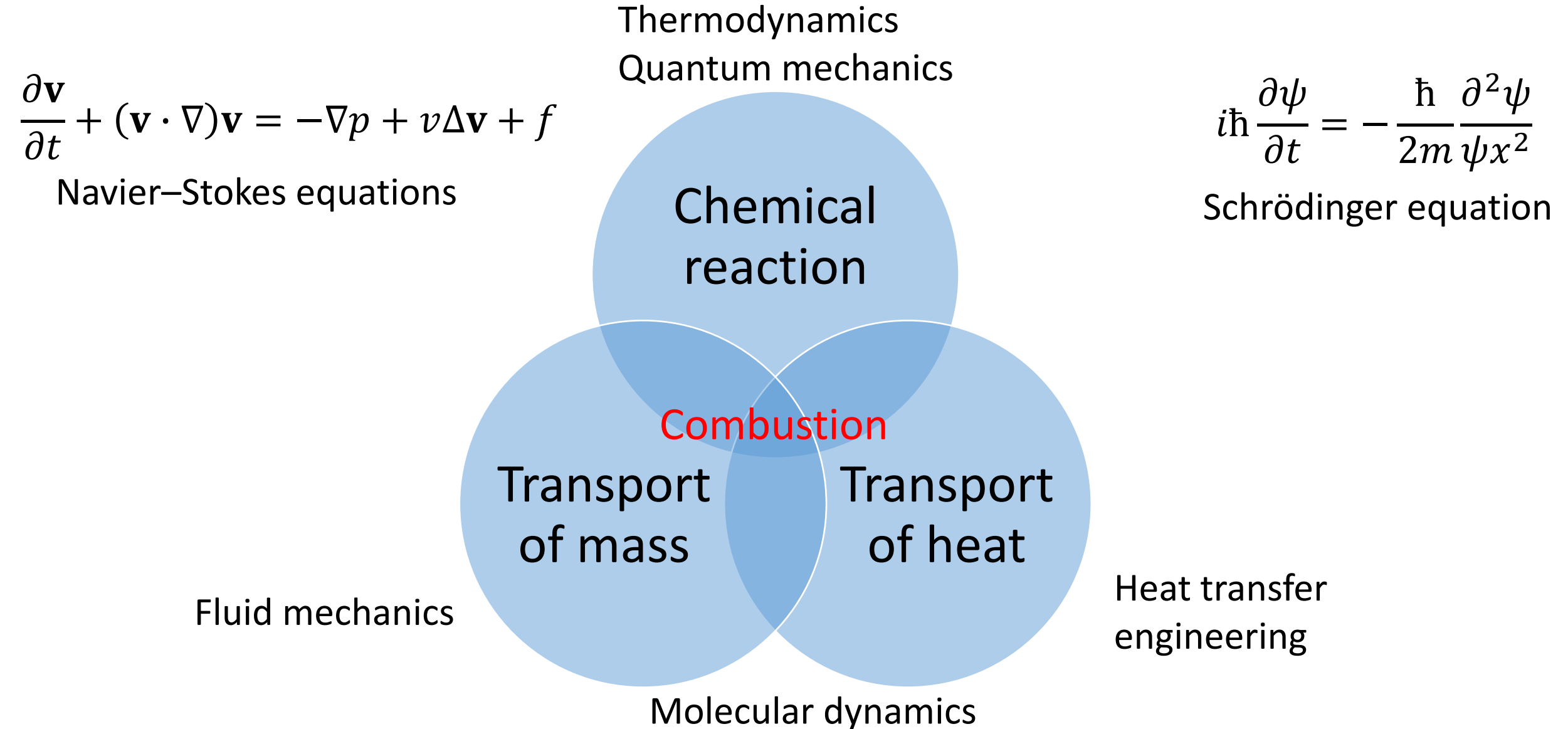
科研費 国際共同研究強化A

Texas A&M University

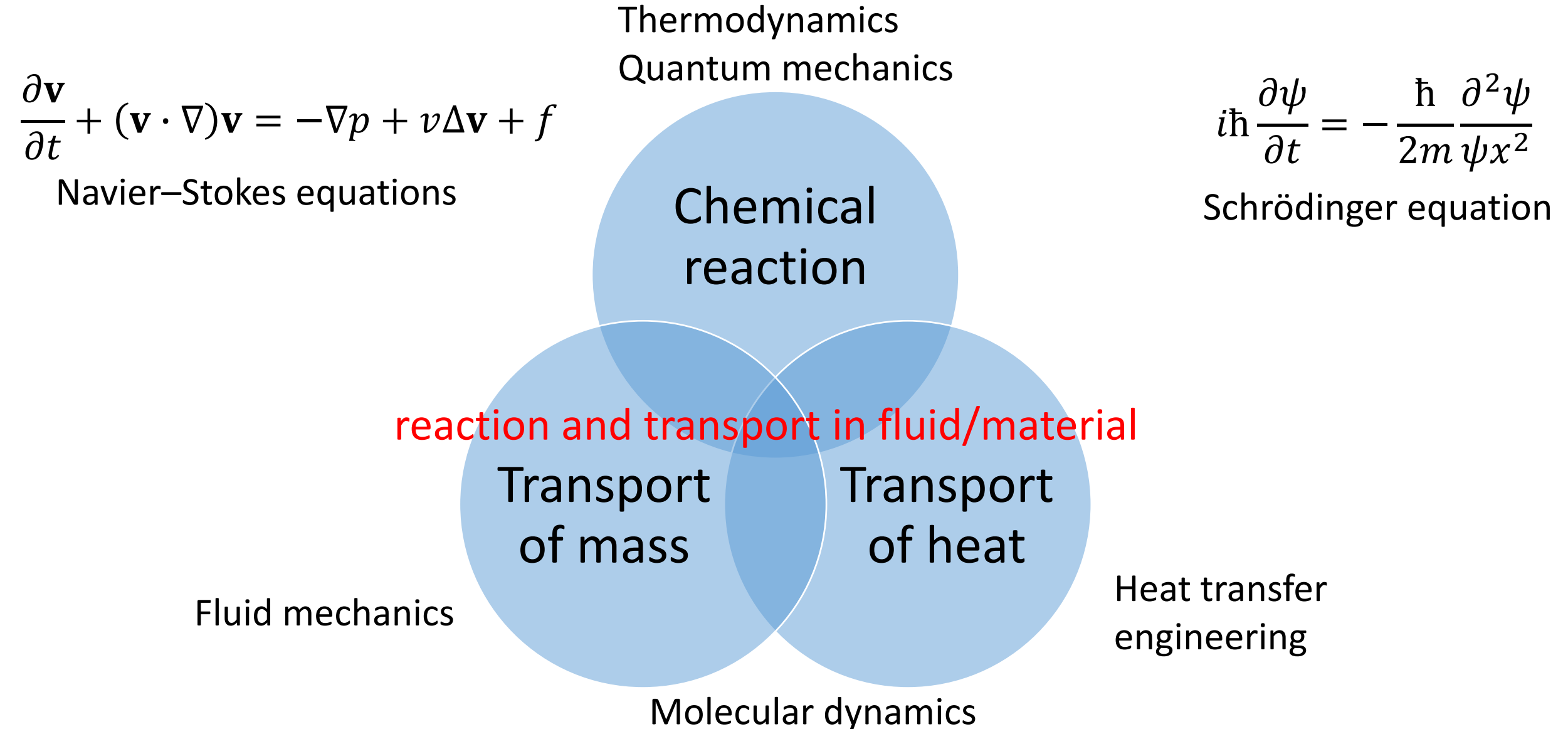
ゴールウェイ大学



Combustion of hydrocarbons



Combustion -> reaction and transport in fluid/material



→研究対象の拡大: アンモニア、バッテリー電解液、冷媒、AI、材料の窒化・脆化・酸化

国際共同研究の展開(頭脳循環後2013年)

Henry Curran



NUIG

CNRS

KAUST

LLNL



Philippe Dagaut

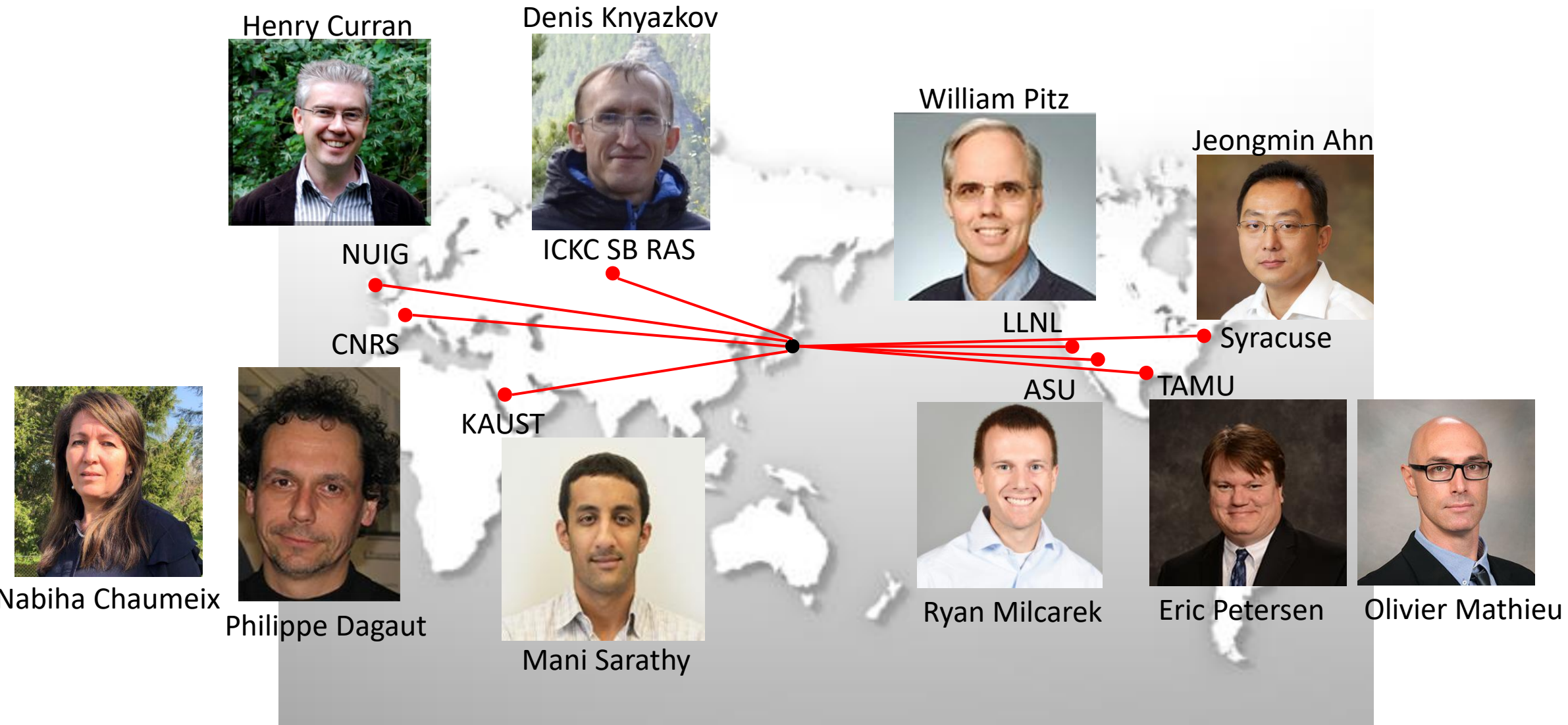


Mani Sarathy



William Pitz

国際共同研究の展開(2021年頃)



国際共同研究の展開(現在)

国際共著論文29件(35%)

・ 外国所属を含む学术论文。ただし、丸田先生の極東連邦大所属分を除く。2024.1時点。

University of Orléans
Christine Rousselle



University of Galway
Henry Curran



ELTE
Tamás Turányi



HUN-REN
Tibor Nagy



Jeongmin Ahn



CNRS
Nabiha Chaumeix



PSI
Patrick Hemberger



CNRS
Philippe Dagaut



KAUST
Mani Sarathy



ASU
Ryan Milcarek



TAMU
Eric Petersen



Olivier Mathieu



留学経験からの個人的意見

どんな行先が良いか？

- 実績
必須。専門分野が異なっていると、留学後も連携しやすい。
- 人格
Gentle & Supportiveかどうかの口コミがあるとよい。面識の有無は重要でない。
- 目的
自身の学術的・技術的目的を明確にして伝える。留学や国際共同研究自体を目的にしない。
- 若いor若手がいる
実力のある若手研究者と協業すると、息の長い連携ができる。
- 国際性
国際的に活躍しているところに行くと、自分の国際的なネットワークが広がる。

留学を通して見える日本（流体研）の良いところ

- 行先と目的の自由度が高い。
- 研究を対象とした留学制度が充実している。
- 学振研究費や科研費の柔軟性が高い。
- 専門性を生かした就職先を国内で見つけやすい。